



怪談湖仙猿

舟

~ 13
3260



へ13
3260
門へ13
3260
巻

余

怪談伽猿養之三

義女水神氏妻よ持事

寛文中のころや佐州伊奈郡の何とやういふ里よ
飯尾幸右衛門といふ人ありけるが家裏さういふいふ
ありけるに彼を名づつ一人は娘ありけるがまは三女の
月の次女ありてやういふ見る人さういふとさういふ
父母さういふさういふみあうまのまはこれごとく
らとらおはる孝行ありまうまは彼娘ありたるは
まはれをありぬ父母まきふれとらさういふや人の
さきおしあうんと十方よ人と信じてるは
り方さういふまはれさういふハ狐狸のこたふれさういふ



昭和十一年
三月五日
購求

一やし法方哉とめ祿カを切のそめはむらやとて日
 ぬいのれども甲斐あふ血の涙成るうして父母をうて
 くること一も光陰をちやきちて四年やど後で流しと
 初の夏よりぬその隣村よ里見五斗くつし人すり
 存志事のとハ莫近此朋友あり一か公教のことあり
 當國の惣社諏訪明神の本宮よ流れてすで小下向よ
 及びうる流さし月のまあるればとける本宮よ五斗に
 らむと見ると志のさし四のれ風流と流を一居くれくお
 かしごととゆく供あんどさきやうよおきてにまこの侍女
 とととどかざり一お物とおわめりるさぬあまよいまご
 又ふれぬ後あるばさうんで隣屯の國主の簾中よ

ころそと五斗もろのわさしよたすみ居るさや
 ちよありてお物よう声してわさしよふかき居るさ
 自らう成ちうしてそれよんてさあハ里ん五斗さぬ
 あくどやゆき一やといをさみれば三年はあつたりし
 存志事のが娘よそつり五斗怒るさあひうらるるあり
 さぬらなるは身やあをたまわさるや二親乃切こ一
 あくさあつらぬとナルれば娘はて我嫁一かれ一年は
 父母あつらぬれをとやあふさぬあつたためひめらさハ
 ちひわらう一とらそぬれ父母のささといでいらるさやの
 それ日あさうよ秘しうありうつくと病されハ下女
 ぬらんとも来つおさあぬるまでハ知りしをそれあり

たのむれしとてさうかきつる物も是へ一が同く先
志づらうして物者おさうししゆめゆるや起さるでつ
らやまよまあすしよまは玉の冠といふはひらひらと
ましておさうに重うんとさうぞつ婚れの式かこさう
にちや敬端よてはかくりやう事よりんこは飯のさう
ひやうといふ人さう形七事とちうんぬの一交展れ中よ
いざあつたつしゆんさうあさ今の業たあまは今迄二十
軍よすはひらひらとさうく色やうしてまのこ一さうあう
ふかりしゆめさあや敬社のさうしゆの水神社を官あり
いありおと然る事今の今夜とさうつしゆはさうあんとあつ
やいよあつても腰妊の方とありは後一子とさうあつる子

あはばてしふいとわさうく合しゆもは本結は清する
らる又母つてもお方のねあんとさうあつるさうとさう
傳ててさうしゆを重物のさうさう現とらういざさう又母の
方とてあつるさうとさうつる重中よ飯一いざさうとさうあつる
さう供の男女さうあつるはは本社の方へ立しゆれらるさう
さうたよ荒然とさうしゆのさういざさうあつるさうれやう
なちあつるさうあつるさうたれさうのさうしゆさうなちあつるさう
あつるさういざさういざさうあつるさういざさうあつるさう
まよさうさうあつるさうなちあつるさうあつるさうあつるさう
さうま一けみあつるさういざさうあつるさういざさうあつるさう
さうてさういざさうあつるさういざさうあつるさう



瓶少女と化して娘成書小せり事

武州神奈川左馬村甚志とつづるをの始末色乃
 姿ありと近郷中へくるありと二ののちもつづるまで
 十八年とありしとき流るるに延享年中仲人けり近村
 何某と云ふ名付せり小は女彼男と云ふい縁念松を名よ
 せけゆるんと云ふ一有取ひそふ思ひおて女のむい
 しく縁取山といふ所とそこを中へ行く迷ひゆい
 后のたつらあり十八九年の夏あるいそつづるい
 かまひせむと云ふといふらつちへつたふか
 つうれと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 ちうと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

水戸の公をて娘をへれく女の心よりあつても娘が
 公の危と病をかた打ちうー表やんみくくと打ちぬれまきバ
 彼が公をていともとらう謙倉のハやどをきー河け
 るバ人ーと送りあうせんいざく奇跡ひぬる神乃
 移香のいぬれても成川ち免けねよ二二丁も河也
 とぬるうとあめんむぢうくくる家居ううしやうあつり
 つあやりかーかゝる所へ男女大勢うーをまつたキお怪ひ
 りてあーぬれバ少直とさくに物語うーつは音をど
 つてしてとてあーぬまバを寺小和歌とつらる鐘う
 くともあうりちる文ぬたやくと麻まむ一と一なるあ
 花あ一ともあつても外かきーぬぬらやあまの産地まやう



に彼少のかの娘たあー戸よまあり今あやーさふんま
 するまをもふくさあは痛ーぞう謙倉のゆさあたりあ
 まぬよあうてぐとああやよサウとてばいあはらぬ
 いまがぬのままこくしあるらう物とをらるば彼が
 成川よあつー日ー換かへのうらよ伏ーとおをもあつら
 倍老の現あう法くうざうーにちちやああまきうみぬれが
 家内北男女ありはとひい恙君の屋このひーくーと
 病ままびーよま心とまよあういあまの目出うや
 建た神子からうけえらうーはま娘の蓋とをくともうか
 うやちるあれをぬる娘心うーうかうちうけそあ毎く
 小じりまーくぬーくを復よ之年の居まぬの中むの

まゝく子二人とゆいぬりつ附彼男りて寺へハは地公
 俊の所用地より一町ある所成り向くなりとて地とて
 あい子共供人よりぐり二里ありありとてぬりての所も
 始れをまよふことありびかして本兼夫婦とてかゝりて
 むつこくちめあふちりておぼろふはたよきなる所
 少て奥へ入ぬつてて地も入らんとする所は地とて
 神成ひくは地より中へく女の小社なりといふより
 ひくふ川へ入ぬれば地も入らんとする所は地とて
 よりて地も入ぬれば地も入らんとする所は地とて
 娘もていふ人も娘の父母は家も地も入らぬれば地も
 かどろさそとてく親れりて送りゆきふ娘も前後

まゝく只やうせんとしてくつと所のを地も入らぬれば地も
 中よりの地も入らぬれば地も入らぬれば地も入らぬれば地も
 なるにけ女は腹とてあやこ立所は安産りけあが
 生れおろし子ハ人の形はあやこ立所は安産りけあが
 よ乳の唱声あけりてあやこ立所は安産りけあが
 唱つてあやこ立所は安産りけあが
 地も入らぬれば地も入らぬれば地も入らぬれば地も

狸旅僧と化し法花経成事

武列府中安養寺とてありて天名宗の所地はりつ所の
 以よやあやこ立所は安産りけあが
 ありて地も入らぬれば地も入らぬれば地も入らぬれば地も

してを教ひし法下とてあくゆかぬ志すなりけり
 まりゆは法要とて先二年二月にたむとけりぬ教日任傍
 憲聖法下ふゆい彼僧中なるハ根もけ年月つくくハの聖
 怨と驚りたる耐^ちさるふと兼なり志するよ悪僧^くに後^ち下^りす
 よをなほにゆん^とと聖へぬとて今いふを乞をうと
 涙すること志づりゆりてナルハけ寺とて十八九町
 の西なる心のありとよ^もハ一^は屍^{もと}あるべし^もれ教くハ
 その屍とく^もたまた^もく^もつ^もりておめさぬ憲聖
 法下の中もつ^も彼僧が^も所へけ^もん^もひ^も多^もく^も古^も聖
 の屍あり法下きなるめりと人のことごとく^も聖^もと^も先^もある
 一^はバかの程^も信^もと化^も一^は寺^も小^もあり^も一^は時^も法^も華^も経^も一^は部^も成^も

本のこゝにむさぬありてん^もた^もり^も形^も予^も轉^も轉^もの^も切^も法^もす^もり^も利益
 ありありてんや湊^も誦^も書^も字^も一^はなる^もの^も功^も法^もり^もく^もあり
 むあり^も一^はに^も程^もハ^も佛^も果^もと^も得^もて^も人^も

猫小見の小神と看する事

え文中中のこゝに有り人相列^も之^も浦^もの^も天^も神^も崎^もく^もり^もと^もころ^も
 之^もを^も法^もと^もする^も權^も師^もあり^もり^も或^も日^も尚^も上^も彼^もま^もり^もき^もれ^もは
 ありの^も人^もあ^もん^もど^もか^もう^もく^も権^も取^もと^も海^も上^もより^もふ^もる^もく^もう^もく^もする^も肉
 子^も目^もと^も西^もより^も入^もて^も湯^もの^もく^も火^もの^もけ^もわ^もの^もな^もり^もく^もる^もか^もひ^もは
 ろ^もう^もぬ^もな^もを^も素^も素^もに^もま^もれ^もゆ^もと^もゆ^もび^もた^も彼^もの^もあ^もく^もり^もん^もや
 け^もそ^もく^もあ^もく^もし^もり^もね^もり^も小^も児^もと^も奥^もより^もね^もを^もぬ^もく^もあ^もよ^も
 や^もん^もゆ^もす^もく^も女^も一^は福^もの^も奥^もの^もと^もの^もを^もさ^もん^もハ^も日^も以^も何^もなる

栢の小児此跡よりさうさう起るるやオカウひしてまわりの小児
 のぬささる小神とさうけり人いふあめ人のとくあめつて後乃
 立阿りそのりくそらて後よむいふ姿とさうアははらるる女布
 物うけよりけ梅子とさうてなや小神さめる所を居て立改る
 こめよりつけぬる小荷はのちわらん人足小児もつらきれ
 ば娘くけがさぬこものなまら秋よりやすくて新玉のま
 とむく初細代りんとて居る末人とあめめぬくいてぬき居
 ば彼小児は依伏してうらうら伏してうらうら居るが居る末人も
 猫形とさうさうとくゆるかくまうりゆくと見えんを
 かへころり猫女とたけとかなどやしてさう伏し居るると
 うささるえま心あくまりこをさ得るれすうとささるるいひえ



ふりり合ふスキある庵下銭扱てぬる所とてあてまうりよ
もや梅ざらるさわけりてる所とてあてまうり切らりてり
ひきよき響現女房とがまつまよゆりうる小兒と所乳
せーらたなく初めくあうやあふ小童後とあはれに
心まのかつとあつびし嬉しとさきーらるる二うの存を
りくおもひーい中がてらめありーい唐と交る
孫を命としり人物せーして人うらぬ

女まこるる池水よ入れ申

つらのいりよ徳村何茶とらう人家返還りしれて夫婦
けいよ歡樂とさるめ一ひまぬお連て家元の里うら
まこるる或日とらる山陰よつらりはあんどさみ終日おび

らるる彼妻奥おまして下女あんどかあいこあいとあらう
悲ひらるるを二町かとと外よつらの池何うる水の水の
色にあらう藍のくーい彼妻女け池とのそみ足てまよ小娘び
かるあらうつる銭いまぞあうらるるそまをさるれ
とお笑ひやそ彼池の中へおひ入て子地とあむがご
下女下男おどろさぬれと底の深さあれざる池のくさるれ
せんさかくあれくとり内被女房池のま中よのあり
先おと打笑もつよ水の底よ入て足さうらる徳村何茶
かくさうていそさあうつら水練と入てあねめとめ
うど終よあうらるるぞあうらるるら

怪談法伽猿卷之三終

